



陳情対応



古川ひろのりは、陳情対応をしています。

- 日時：毎月第1土曜日15:00～17:00
- 場所：ツナガリエ石橋会議室 他
- 予約：陳情・打ち合わせには、ご予約が必要です。
090-2432-2799（古川携帯）

2024年
春号

【発行元】大阪維新の会 池田議員団 563-8666 池田市城南1-1-1 3F

古川ひろのり略歴



古川ひろのり公式サイトをぜひご覧ください!

1954年	池田市生まれ、北豊島小、北豊島中(19期生)、池田高校(24期生)
1972年	早稲田大学商学部(早稲田大学国際部交換留学生として1年間米国留学)
1977年	三井物産入社、同社エネルギー・情報産業本部(米国勤務10年間)
2000年	株式会社ホリプロ取締役経営企画室長
2005年	TOEIC935点

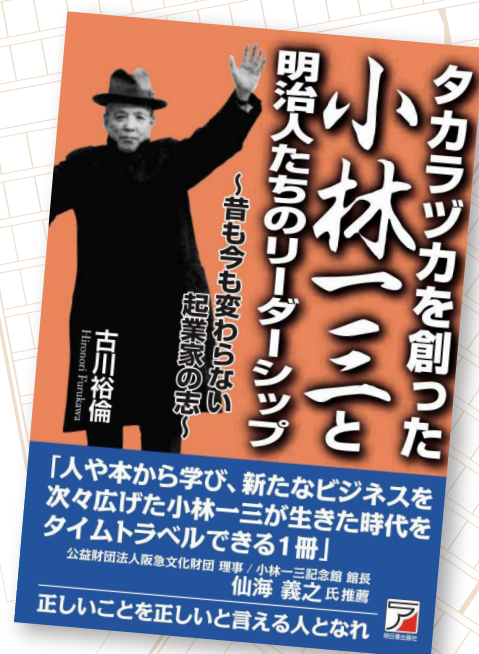
現在

池田市議会議員(大阪維新の会 池田)、
総務委員会委員、まちづくり特別委員会委員
一般社団法人彩志義塾(ダイバーシティ、
女性活躍推進の「立志塾」運営)
石橋読書会会長、自称ウォンバット応援団長
ビジネス書著者(32冊)

新刊拙著の お知らせ

小林一三さんの本

タカラヅカを創った 小林一三と 明治人たちのリーダーシップ を昨年末に上梓しました



「起業家の街、池田市」

池田市を終の住処(ついのすみか)とした小林一三さんの足跡は、皆様ご承知の通り、阪急文化財団が運営する「逸翁美術館」「小林一三記念館」「池田文庫」にあります。

昨年が一三さんの生誕150周年で、明治6年に山梨県韮崎市で生まれました。慶應義塾で福沢諭吉に学び、三井銀行を経て、阪急電鉄、タカラヅカ、東宝(東京宝塚)などを創りました。

今年は、池田小学校と北豊島小学校が150周年を迎え、「ホホウ、同じ頃なんや」と歴史の重みを感じます。

明治6年とは、どんな時代だったのでしょうか。江戸時代から明治になったとはいえ、その頃にはまだまだチョンマゲを結っている人が大勢いました(断髪令は、明治4年)。

日本で初めて機関車が新橋・横浜間を走ったのが、明治5年。歩いて10時間かかったのが、汽車で1時間となり、人々を驚かせました。ただ、機関車や客車からレールに至るまですべてが輸入品であり、国内産業もまだまだ第一次産業依存でした。

小林一三が慶應義塾で学んだ明治半ばでも、明かりは「行燈(あんどん)」でした。

脱サラ人間が、電鉄会社を始め、その他多種多様な事業を成功させました。確かに、鎖国から解かれた明治という新時代という背景はあったにせよ、これほどまでに時代に対応し、さまざまな新規ビジネスを構築するという結果を出した人間は稀だと思います。単なる強運では、これほどのことはできません。それなりの才能と努力があったから成功したのです。

私が思う一三さんの成功の要諦は次のとおりです。

1. 先輩・先人の教えに耳を傾け、「人から学ぶ」ということを実践した。
2. 膨大な読書量からビジネスに活用できる多くのヒントを得た。
8,000冊の本を一三さんが池田文庫に寄付されたとのこと。

3. 何事にも興味を持ち、「なぜ、そうなっているのか」を考え抜き、「どうなるだろうか」と先を読んでいる。

4. 調査ができる部分は徹底的に行うが、一旦やると決めたら脱兎のごとく行動する。スピードと行動力が素晴らしい。

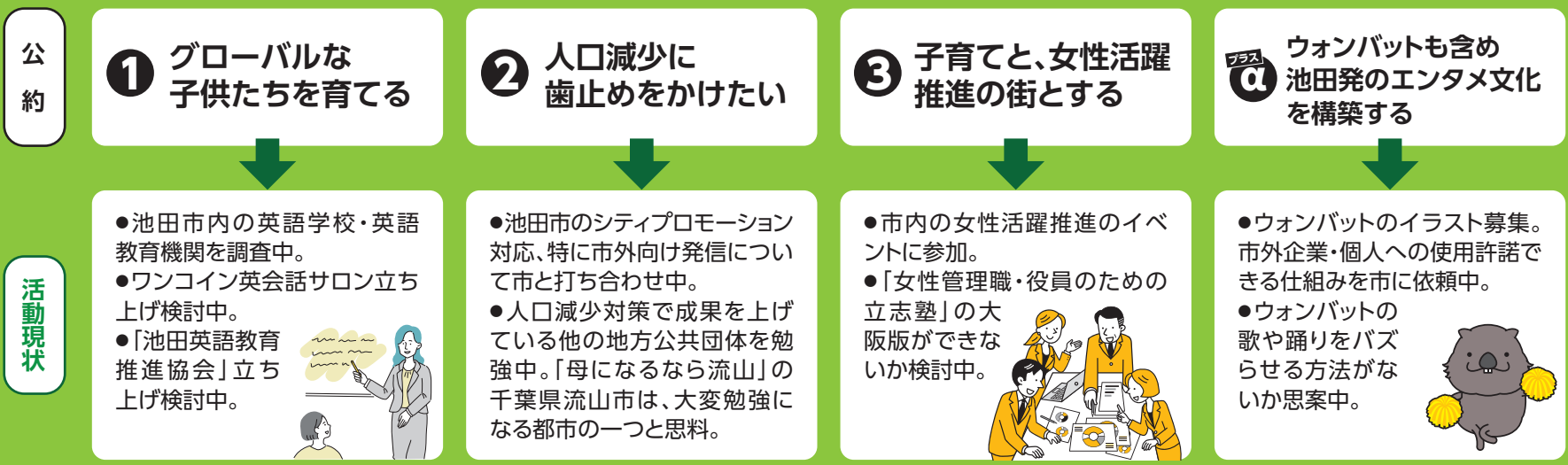
今、先を読むことを考えると、IT産業やエコ産業が有望かも知れませんが、明治時代では(結果的に)「明かり(電気)と輸送(鉄道)」でした。それら先読みし行動に移した一三さんは、尊敬すべき起業家でありました。

池田市のもう一人の起業家といえば、ご存知安藤百福さん。池田市には「事始め(ことはじめ)アシスト」という起業家支援プログラムがあり、起業家の応援をしています。池田市の名誉市民である安藤百福氏からの寄付金を原資とし、起業家に対して「百福大賞」事業として、表彰・奨励金授与を継続しています。

私は、池田市内の起業家育成のみならず、池田市への既存企業の誘致も大切であると思っています。確かに市の面積が狭いので、製造業向けに大きな土地を提供できなくても、IT会社などは小さなオフィスで事業ができます。道路や空港に恵まれた池田市の利便性をウリにして、企業誘致も含め池田市の発展に繋げていくべきであると考えます。

今は新人議員として学びの時間が必要なので、しばらくは無理ですが、次はやはり池田市が産んだ起業家安藤百福さんについて書きたいと思っています。(古川)

次世代のために池田を変える! **3^{プラス}+α**の主張



『男性ですが、実は…、女性活躍推進家です!』

私は、池田市内ではほとんど知られておりませんが、バリバリの女性活躍推進家です。

安倍政権時代に「2020年には女性管理職比率を30%にする」と大きく打ち出されましたが、結果は夢のまた夢でした。

ジェンダーギャップ・ランキングという女性活躍に関する指標がありますが、日本は世界150カ国中、毎年120位ぐらいです。日本より下の国は、ほぼ宗教的に女性差別が行われている国々です。

私が、ダイバーシティや女性活躍推進に興味を持った理由はこうです。

(1) 商社勤務時代に米国ロサンゼルスに7年間、ニューヨークに3年間駐在した際にこの目で見た女性の活躍。

(2) 商社という大組織と従業員数200名のホリプロを経験。大組織では、男性担当者と女性アシスタントの業務が明確に分かれており、女性があくまでアシスタント業務のみ。他方、ホリプロでは、男女関係なく(女性にも呼び捨てで)、若手タレントを育成していた。厳しさもあるが、生き活きと働く女性の意欲の高さを感じた。

私は、現在一般社団法人彩志義塾(さいしぎじゅく)の代表理事であり、東京で「立志塾」というオープンセミナーを10年継続しています。6ヶ月ワンクールで、月1回土曜日終日講座を開催。毎月1冊の課題書を読み财经やM&Aの講義

のほか、実社会で活躍中の女性役員の成功談や失敗談を聞く。管理職や役員を目指す女性のための講座です。120名を超える卒業生を出し、プロパー社員の役員も誕生しています。

男女を問わず、国籍や年齢に関係なく、お互いを尊重し、朗らかに働ける社会としたいと考えます。少子高齢化による人口減少に対応するためにも、ダイバーシティや女性活躍推進が必要であると思います。

ちなみに、女性活躍推進に関する拙著もあります。

- 「女性が職場でかしくふるまう方法」(古川裕倫、扶桑社文庫)
- 「女性を活用できる上司になる」(古川裕倫、扶桑社)
- 「一生働く覚悟を決めた女性たちへ」(古川裕倫、扶桑社新書)



令和5年12月議会一般質問から抜粋

～公約実現に向けての質問を重点的に行っています～



▶人口減少を見据えた歳入予想について。5千人減少すると歳入の減収額は?

→約3.8億円の税収入減を予想する。

▶他市向けシティプロモーションの進捗状況は?

→昨年10月に池田市シティプロモーション基本方針を策定し、市内外の人々が本市に積極的に関与したいという「地域への関与意欲」を高める施策を実施していく。

▶シティプロモーションの一環としてハーフマラソンを実施できないか?

→人的コストや財政的コスト、開催場所の確保などの課題があり、池田市での実施は困難。

▶飲食店や商店街で使える地域クーポン券をふるさと納税の返礼品として活用できないか?

→池田市は観光都市ではなく、地域クーポン券が活用できるか疑問。

▶自助努力で歳入増となるふるさと納税の充実は大切であると思うが、商工会議所メンバーにも制度や返礼品規定などの説明を行なっているか?

→商工会議所の警報にチラシを同封する等、アプローチしている。引き続き尽力する。

▶カップヌードルミュージアム来訪者の回遊性を高めるべく、そこから五月山動物園までの道を(今のさくら通りを少し延長して)「ウォンバットロード」と愛称変更できないか?

→愛称変更については、地域住民の合意形成が必要。

▶昨年6月議会での一般質問で伺ったウォンバットの「イラストコンクール」の実施状況は?

→昨年10月の「ウォンバットの日」に「著作権は池田市に帰属する」写真を募集し、展示した。写真の使用許諾やイラストコンクールについては引き続き検討する。

地域活動

石橋読書会
(2水会)

毎月第2水曜日

●対象:老若男女不問。自分の成長、キャリアアップ、後進育成などに興味のある方、異業種との交流をしたい方、就職前に何をしておくべきかと考える大学生など。

世田谷ビジネス塾(姉妹読書会)は、2008年から、石橋読書会は2018年から行っています。

●日時:毎月第2水曜日 18:30~20:00

●場所:ツナガリエ石橋他

●費用:無料

●内容:ビジネス書、自己啓発書、歴史書(小説可)、伝記など、主に人の成長につながる書籍を紹介しあい、議論します。「本を紹介するもよし、議論参加だけもよし、聞いているだけでもよし」。

フェイスブック
石橋読書会参照!



Facebook ↑